



仮設住宅でのお茶っこ交流会 継続中



YMCA 石巻支援センターでは、市内の仮設住宅団地を継続的に訪問し、歌の広場などのレクリエーション・交流会プログラムを行なっています。

2013年4月30日は、東京 YMCA リーダー、滋賀 YMCA リーダー、その他 YMCA 関係者の青年 5 名が市内の仮設住宅団地を訪問し、お茶っこ交流会プログラムを行いました。(※「○○っこ」というのは東北地方の言葉です。例:「どじょっこふなっこ」など。「お茶っこしていきね」は「お茶を飲んでいきませんか?」の意味です)

リーダーたちはキャンプ等のレクリエーションの経験を生かしてゲーム大会を企画し、仮設住宅の住民およそ 30 名とお茶を飲みながら楽しい時間を過ごしました。アイスブレイクで頭の体操として手遊びをしたり、グループ対抗のクイズ大会(仮設住宅に関わるものの長さあてゲームなど)をしたりしました。うまくゲームの順序を組み立て、場を盛り上がるのはリーダーの得意分野です。ゲーム大会で笑い合っただけに盛り上がった後は、リーダーも住民の席に混じって一緒にお茶を飲み、色々な話を伺います。



お茶を出して参加者をもてなす青年ボランティアリーダー



ゲーム大会で長さあてゲーム



Nさん(下記参照)のお宅でご飯を頂く、青年たち

この日に訪問した市内の仮設 W 団地は、歌の広場やお茶っこプログラムを 1 年以上継続して行っており、YMCA のボランティアが来るのを住民の皆さんは本当に心待ちにしてくださっています。特にリーダーの青年が訪問すると 自身の子どもや孫のように喜んで迎えてくれる方が多いです。

震災から 2 年が経過し、石巻では大規模なボランティア団体が相次いで今年の 3 月で活動を終了させました。「世間から震災が忘れ去られそう」と住民の方々は悲しそうに言います。これからの時期は、団地を訪問してお茶を飲みながらお喋りをするだけでも、大変喜ばれます。仮設住宅に残らざるをえない方々に寄り添い、「東北を忘れていないこと」を伝えることが、全てのボランティア活動に通じる、意義であるのかもしれない。

ここ W 団地には、YMCA の青年たちの訪問を心の底から楽しみにしてくれている N さんという一人暮らしの方がいます。YMCA の青年が団地に来るときは、決まって自宅(仮設住宅)に招いてくださり、手料理を沢山振舞ってくださいます。一人暮らしの N さんはこのように団地を訪問するボランティアの青年をもてなすことが今では生きがいと言います。今は仮設住宅に暮らす N さんですが、「大変なことがあったけど、こうして仮設住宅に移らなければ、全国の多くの人々が訪問してくれて楽しい時間を過ごすこともなかった。今は今で楽しいよ」と前向きなことを仰います。ボランティアが訪問し続けるから、生きがいを感じられる今があるのかもしれない。

東日本大震災復興支援募金

・ゆうちょ銀行(郵便振替)
振替口座:00120-7-714728
名義:公益財団法人 東京 YMCA
・銀行振り込み
みずほ銀行 神田支店 普通 1677931
三井住友銀行神田支店 普通 7656469
名義:公益財団法人 東京 YMCA
※「東日本震災」とお書き添えください。